

あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

ご挨拶

賀茂真淵翁遺徳顕彰会 会長 山下智之

あたたかな春の陽光が縣居神社にも注がれ、大変よい季節になりました。皆様方におかれましては、当顕彰会への格別なご理解とご高配を賜り心より御礼申し上げます。

賀茂真淵は宝暦七年三月(六十一歳)国学に思いを籠めた「桜の詞」

「桜の詞」

もろこしの 人に見せばや みよしのの

よし野の山の 花のさかりを 賀茂真淵

【歌意】もろこし(むかしの中国)の人々にも見せてやりたいなあ。吉野の山に爛漫と咲き誇る桜の美しさを

真淵の歌碑の「立志の丘」には、毎年大勢の人が初日の出に拝礼し、新年の挨拶と一年の無病息災、家内安全などを祈願されてきました。歌碑は平成九年、真淵生誕三〇〇年、市制八十五年記念の事業として建立され、真淵自筆の一字一字に学績・学徳が偲ばれます。

泰平の世の日本は全国に桜の季節を迎え、日本の国柄の美しさを桜に託して、多くの人が桜を愛で、その桜を短歌や俳句にして今に伝えていきます。

昨年の十一月二十六日、当顕彰会では課外研修に相応しい本居宣長の「松坂」を訪れ、地域を散策して「本居宣長記念館」の皆様と文化交流をしました。

敷島の 大和心を 人間はば 朝日にほふ 山桜花

本居宣長

【歌意】この私に日本の心を人が何かと尋ねたならば、朝日に照り輝く山桜の花の美しさに感動するような心だ(と答えよう)

今年も美しい山桜花に感動する心を持ち続けて活動してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

令和6年度 事業報告

- ・令和6年4月22日 代議委員会 R5 事業報告・決算報告 R6 事業計画・予算案
- ・令和6年8月26日 理事会 会員状況報告・活動状況報告
- ・令和6年10月30日 例大祭
- ・令和6年11月26日 課外研修 松阪「本居宣長記念館」訪問・交流
- ・令和7年1月1日 新年祭
- ・令和7年3月4日 生誕祭齋行(理事参列) 講演会 理事会 R6 事業報告・会計報告・理事変更の承認

賀茂真淵翁を知ろう(15)

真淵と田安家

田安家は、徳川御三卿*の一家。田安宗武(むねたけ)が初代当主。宗武は八代将軍吉宗の次男で、幼少より聡明で人望があり、次の将軍に推す声も多かったが、吉宗は序列を重んじ長兄の家重を九代将軍とした。宗武は1731(享保16)に江戸城田安門*内に屋敷を賜り10万石を拝領した。以後、田安家は学問の家系と言われるほど、多くの文人を輩出している。

田安宗武は、少年期より和歌に親しみ、荷田在満(かだのありまる)に古学・歌道を学んだ。在満が宗武の要請を受けて献上した「国歌八論」*に対し、宗武が「国歌八論余言」で反論したこと、宗武から意見を求められた賀茂真淵も『国歌八論余言拾遺』を著したことは、その後も多くの論者を巻き込むこととなった。1746(延享3)荷田在満は田安家の仕官を辞し、代わりに賀茂真淵を推薦した。以後、宗武は真淵を師とし1760(宝暦10)まで重用した。宗武の詠風は、はじめは伝統主義的なものであったが、次第に万葉集の影響を深く受けたものとなった。真淵と宗武は単なる師弟関係というより、互いに協力し、影響し合って研究を深めていったと考えられる。

田安宗武には7人の息子がいたが、その七男が田安賢丸(まさまる)、後の松平定信である。賢丸は側室の子であったが、宗武の長男から四男までは早世し、五男徳川治察が嫡子になっていたため、一歳年上の兄と定信は正室の宝蓮院殿が養母となった。定信は、幼少の頃より漢学、和歌、絵画を学び聡明さを発揮しており、父の影響も受けて国学的な考え方や趣向を受け継いだようである。

定信は数え17歳の1774(安永3)、陸奥白河藩の養子となるが決まり、聡明で十代将軍家治の後継とも目されていたが、そのチャンスは失うこととなった。(田沼意次の策略があったとも言われる)

白河藩主となった定信は、天明の大飢饉における藩政の立て直しなどの手腕が認められ、1787(天明7)徳川御三卿の推挙を受けて、十一代将軍家斉のもとで老中首座となった。そして、天明の打ち壊しなどを機に幕閣から旧田沼系を肅正し、祖父・吉宗の「享保の改革」を手本に「寛政の改革」を行い、田沼意次の経済政策を改め幕政再建を目指した。

賀茂真淵門人であった平賀源内。エレキテルの復元でよく知られているが、草本学を学び、偽作浄瑠璃を発表したり鉾山開発をしたり西洋画を広めたり...と、様々な才覚を発揮し、最後は人をあやめて獄中で死を迎えるなど、それこそばらばら。松平定信や平賀源内の中に、真淵の思想はどのように受け継がれていたのか、関心のあるところである。

*徳川御三卿 田安徳川家、一橋徳川家、清水徳川家の総称。御三家と異なり領地は持たず、江戸

*田安門 1636年(寛永13年)に修繕されたものが現在に伝わっていると考えられ、北の丸公園に残っている。国の重要文化財。

*国歌八論 歌源・翫歌・撰詞・避詞・正過・官家・古学・準則の八論に分け、和歌の本質と歴史を論じたもの。



活動報告

縣居神社「例大祭」

令和6年10月30日 理事一同で参列させていただきました。



研修会《「本居宣長記念館」訪問・交流》

令和6年11月26日 5年ぶりに「本居宣長記念館」を訪れ、文化交流を行いました。【講師】本居宣長記念館 館長 野田幸範 様



縣居神社「新年祭」 令和7年1月1日元旦



「立志の丘」から拝む初日の出



有馬朗人先生の句碑に反射する朝日

賀茂真淵翁「生誕祭・講演会」 令和7年3月4日

理事が参列し生誕祭を齋行、続けて講演会を行いました。演題「三方が原の戦いについて」 【講師】賀茂真淵翁遺徳顕彰会 会長 山下智之



理事変更のお知らせ

- 退会** 参与 中村 信吾様 令和6年12月1日 ご逝去 これまでのご尽力に感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます
- 顧問 川島 順三様 理事 和久田 隆子様 ご高齢のため退会
- 入会** 理事 鈴木 康二様 (元市職員 ジュニアサポーター)